



岡山県立大学が文部科学大臣賞を初受賞 – 平成 25 年度第 1 回 –

◆ 語彙力向上のために意識をもって学習

日本語検定（語検）を受検した団体から選出される最高賞の「文部科学大臣賞」を岡山県立大学が初受賞しました。同大学の教養科目「日本語表現法」を受講する学生が3級に挑戦して、大学・短大部門で高い得点率を記録。授業を担当する柴田奈美教授は「受賞は学生にとっても指導者の私にとっても大きな励みになります」と喜びを語りました。学生の指導に語検をどのように活用しているのか、柴田教授に伺いました。



柴田教授は日本語の基礎力向上を目指す「日本語表現法」の授業を10年ほど担当しています。授業は全学部の学生が選択可能な教養科目で、受講は1年生が中心。就職活動が始まった段階になって、お礼状の書き方や敬語の使い方が分からないと悩む学生の姿を見て、授業では、手紙の書き方や履歴書の書き方など実践的な指導を行っています。

4年前、柴田教授は学生に語検の受講を呼びかけ始めました。「語彙力を上げるためには、本を読むなどの方法もありますが、意識を持って勉強する機会を増やさないと難しい」とその理由を語ります。「自分に自信のない学生が増えているようにも感じていました。目標に向けて努力をして、それを達成する喜びや充実感を味わってもらい、自信をつけてほしい」という願いも込められているそうです。

勉強の結果は、就職活動のときに顕著に現れるそうです。「エントリーシートを見ても、文法がなっていないかったり、間違ったことわざの使い方をしていたりする生徒が多かったです。日本語検定で勉強をして基礎力をつければ、エントリーシートも自分の力で書くことができ、就活に役立ちます」。履歴書の資格欄に書ける資格があることも、学生の自信につながるようです。

大学では、グローバル化への対応が急務とされ、英語の授業にますます重点が置かれています。柴田教授は「英語力向上のためにも、基礎となる日本語の能力向上が不可欠」と強調します。日本語検定委員会によると、英語力向上を目的として語検を受検する大学、企業も年々増えているそうです。学生は、就職活動でTOEICのスコアも求められるため、柴田教授は「1、2年生のうちに日本語検定を受検し、3、4年生でTOEICを受検する」という4年間のプランを提案しています。



受検後の詳しい結果分析カルテも重宝しているそう。「どの分野が苦手なのかが分かり、効果的に指導もできます。勉強を続けて、どんどん上の級にもチャレンジしてほしいです」と学生たちに期待しています。

(文責：時事通信社 岡山支局 野尻麻実)